

行政視察報告書

令和2年 3月 5日

会 派 名 江政クラブ

会派代表者 河合 正猛

(参加者：宮田達男、岡本英明、長尾光春、田村徳周)

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

①

年月日	令和2年2月20日(木)
視察時間	午後1時15分～午後2時45分
視察先	国土交通省中部地方整備局 木曾川上流河川事務所
視察項目	防災拠点について 江南市防災拠点について(説明) 長良川岐阜河川防災ステーション(見学)

行政視察報告書

①

年月日	令和 2 年 2 月 20日 (木)
視察時間	午後 1 時 15 分～午後 2 時 45 分
視察先	国土交通省中部地方整備局 木曾川上流河川事務所
視察項目	防災拠点について 江南市防災拠点について (説明) 長良川岐阜河川防災ステーション (見学)
<p>■目的</p> <p>江南市北浦地区に建設を予定している、新ごみ処理施設について、同施設の建設場所は、全体で7.2ヘクタールの面積があります。</p> <p>これを3つのエリアに分割し、新ごみ処理施設は中央エリア (約3.2ヘクタール) に建設することが計画されています。</p> <p>この他に東側エリア (約2.4ヘクタール)、西側エリア (約1.3ヘクタール) があり、その他県道 (約0.3ヘクタール) がありますが、現在のところ、東側エリア、西側エリアは尾張北部環境組合にて利用する予定がなく、東側エリアについては江南市当局から、木曾川上流河川事務所に対して、国の防災拠点としての活用が可能であるか打診している状況です。</p> <p>(補足) 各エリアの面積については、平成28年第9回全員協議会における当局説明内容からの抜粋</p> <p>今回、東側エリアについて、どのような状況 (決定事項、検討事項) になっており、今後どのように対応が進んでいくのか調査し、当市における東側エリアの扱いを検討する際に向けての参考にします。</p>	
<p>■内容</p> <p>【東側エリアを防災拠点にすることについて】</p> <p>木曾川上流河川事務所において、当初計画していた江南市鹿子島町裏から、北浦地区への変更は、現在計画変更中の段階であり、変更申請書を作成し、国土交通省の所管部門にて精査、検討を実施していることがわかりました。</p> <p>これは、江南市から、北浦地区の利用について、平成28年に打診があり、同事務所内での検討を実施した結果、江南市鹿子島町裏よりも交通アクセス面でメリットがあるとの見解を得たことによるものであるとのことでした。</p>	

防災拠点とは、水防活動を行う上で必要な土砂などの緊急用資材を事前に備蓄しておいたり、資材の搬出入に必要な作業場所を確保するための施設です。

洪水時には江南市および周辺市町が行う水防活動を支援し、災害が発生した場合には緊急復旧などを迅速に行う基地となるとともに、平常時には地域の人々のレクリエーションの場として、また河川を中心とした文化拠点として大いに活用できる施設です。

防災拠点には、「ヘリポート」「緊急車両スペース」「作業スペース」とともに、「備蓄土砂の堆積スペース」、「テトラポットの保管スペース」がありますが、平常時には、「ヘリポート」「緊急車両スペース」「作業スペース」部分は駐車場として、また、「備蓄土砂の堆積スペース」は広場や、グラウンド等での利用が可能であるとの説明がありました。

また、防災拠点に隣接するスペースについては、協議を行った結果にはなるが、木曾川上流河川事務所側の負担にて、「備蓄土砂の堆積スペース」と同じ高さ（周辺堤防と同じ高さ）まで盛り土を行うことが可能であることの説明がありました。

東側エリアの整備スケジュールについては、現時点では全く決まっていないとの説明がありました。（計画変更手続きが完了してから、土地取得に向けた活動を開始する予定であるため、実現時期の見通しについてもわからないとのこと）

東側エリアへの土砂等の搬入については、基本的に木曾川や、長良川の河川改修、堆積土砂の撤去により発生した土砂を搬入することを予定していました。土砂搬入先の要件による盛り土ではなく、あくまでも河川工事で発生する残土を処分することを目的とした「備蓄土砂の堆積スペース」であることの説明がありました。

【長良川岐阜河川防災ステーションの見学について】

同ステーションには、災害発生時に利用する「防災司令室」、「水防団待機場所」として利用できる施設とともに、岐阜市が平常時に利用するための「岐阜市長良川防災・健康ステーション」が整備されていました。

同施設は長良川北側堤防沿いで岐阜都ホテル（旧ルネッサンスホテル）横に建設されておりますが、防災拠点横に隣接した土地を岐阜市が購入し、木曾川上流河川事務所にて盛り土を行っていただき、その後岐阜市にて施設を建設したものであるとのことでした。同施設内に「防災司令室」がありますが、施設はあくまでも岐阜市の所有物であるとのことでした。

同施設から、長良川対岸（南側）には金華山があり、長良川の眺望をながめながら、フィットネスジムで汗を流すことができるなど、ロケーション、設備はとて素晴らしいものでありました。

夏には同施設のほぼ正面の位置で、花火大会が開催されるなどのイベントがあり、同施設屋上のデッキやサロンなども一般市民に開放（抽選）されるなど、平常時には賑わい創出にも一役買っている施設であることがわかりました。

■所感

今回視察を行った、木曾川上流河川事務所および長良川岐阜河川防災ステーションについては、今後犬山市、江南市、扶桑町、大口町の2市2町（尾張北部環境組合）で建設を行っていく、新ごみ処理施設の周辺をどのように整備していくか考える上で、とても参考になりました。

現時点ではとても難しいことですが、西側エリアと中央エリアを入れ替えることができれば、今回視察を行った長良川岐阜河川防災ステーションのような有益な施設を防災拠点横に整備することが可能であったかと思うと、エリアの分割や利用用途の検討タイミングでこれらの情報を知っていたら、また違った結果になったと思われる。

（長良川岐阜河川防災ステーションは平成28年3月より、施設の供用を開始しており、新ごみ処理施設建設予定地のエリア分割を行う前にはすでに稼働し、情報収集が可能な状況でありました）

ごみ処理施設建設予定地全体の盛り土については、スケジュール的には建設着工前に完了することが難しいことがわかりました。

木曾川氾濫時の水没想定マップを見る限りでは、盛り土を行った上に新ごみ処理施設を建設することで、災害発生時にもごみ搬入が問題なく行えるメリットがあったのではないかと思いましたが、新ごみ処理施設の建設についても待ったなしの状況であるため、あきらめるしかないと思いました。

新ごみ処理施設東側エリアの活用については、まったくの白紙状態ですが、今後の検討を進める過程において、今回の視察結果を参考にさせていただきます。